

特別記事

うに加工の元祖

城戸久七翁顕彰碑建立の経緯

中市石山

(彫刻家・西日本支局長)

乃木流水石会の水石展が平成八年八月二十二日に、下関市旧英国領事館で開催された。

そのおりに全国的に名代な下関のうに甚本舗(株)社長の奥様で専務(上田玲子様)が參觀され、私にアルコール漬けうに加工の元祖である城戸久七翁の顕彰碑を、海の自然石で「六連島」に建立したい。だが碑はさり気無い小規模なものでありたいと囁かれた。

更に翁ゆかりの六連島の自然石は軟らかいから、石屋さんに一任しようと思っっています。が……と。

その時、私は自然石ならばと、探石の閃きがあり、自然石の碑のことなら私に任せて下さいと言って、了承してもらった。

六連島は下関に属して、東経一三〇度五二分、北緯三三度五九分、響灘の孤島であり、島の面積は〇・七〇三平方キロメートル。平

成八年(一九九六年)十月一日現在で五三戸・二〇六人(男一〇八人、女九八人)である。この北緯三四度線は古代から太陽の道と

六連島案内図



▲ 金雲母玄武岩